



## 雨漏りのワンルーム

この家には雨が降る。

自分の家に完璧さを求めるようになったのはいつからだろう。  
軋む床を踏みながらすきま風の障子を塞ぎ、雨漏りの下にコップを置く。  
めんどうくさい我が家と向き合う作業はちょっと愛おしいものだった。

この家には雨が降る。

外界と繋がってはいるけれど、私だけのワンルーム。  
水瓶に落ちる雨粒の音、風呂桶にたまる水、愛しい植物に降りそそぐ恵み。  
雨に唄えば、なんて美しい我が家なのか。

雨が止んだ。

でも、あとちょっとだけ、この家には雨が降る。なぜなら、  
この家には池がある。

みんなこの池の水を使っている。  
あれ、そういえば、この水ってきれいなのかしら?  
最後にいつそうじしたんだっけ。

この家には雨が降る。  
世界にも、雨が降る。  
あれ、この雨水ってきれいなのかしら?  
今、世界はうまく廻っているかしら。

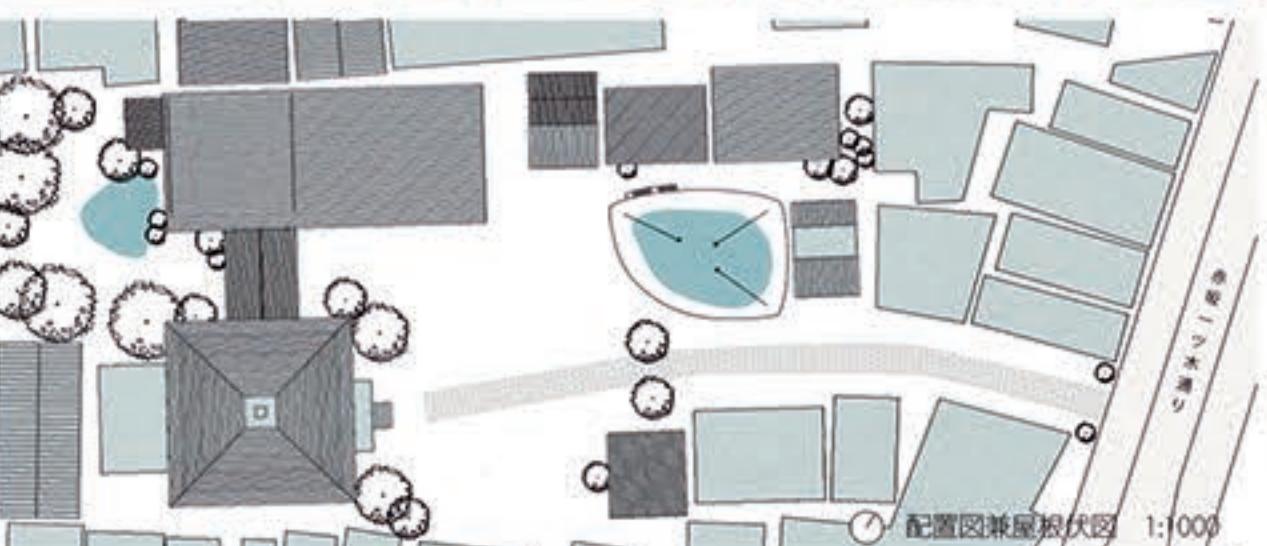
自分の家への慈しみと、雨の美しさへの羨望と、少しだけ世界へのまなざし。  
自分勝手からはじまり、自分だけでは終わらない、愛の家。

敷地は溜池山王、赤坂一ツ木通りから参道を進むと、高密度な景色から少しだけひらけて浄土寺がある。その脇の住宅街に位置する。

3つのワンルームの間は通り抜けられるようになっており、奥の3軒のみが使う私道とつながる。

屋根の上の池は寺の裏庭の池と呼ぶ。密集地でも屋根の上の溜池が増えれば、生態系にも寄与できるかもしれません。

参拝客が突然の雨に少し雨宿り、しかし、何滴か落ちてくる雨漏りに首を傾げ、屋根を見上げる。



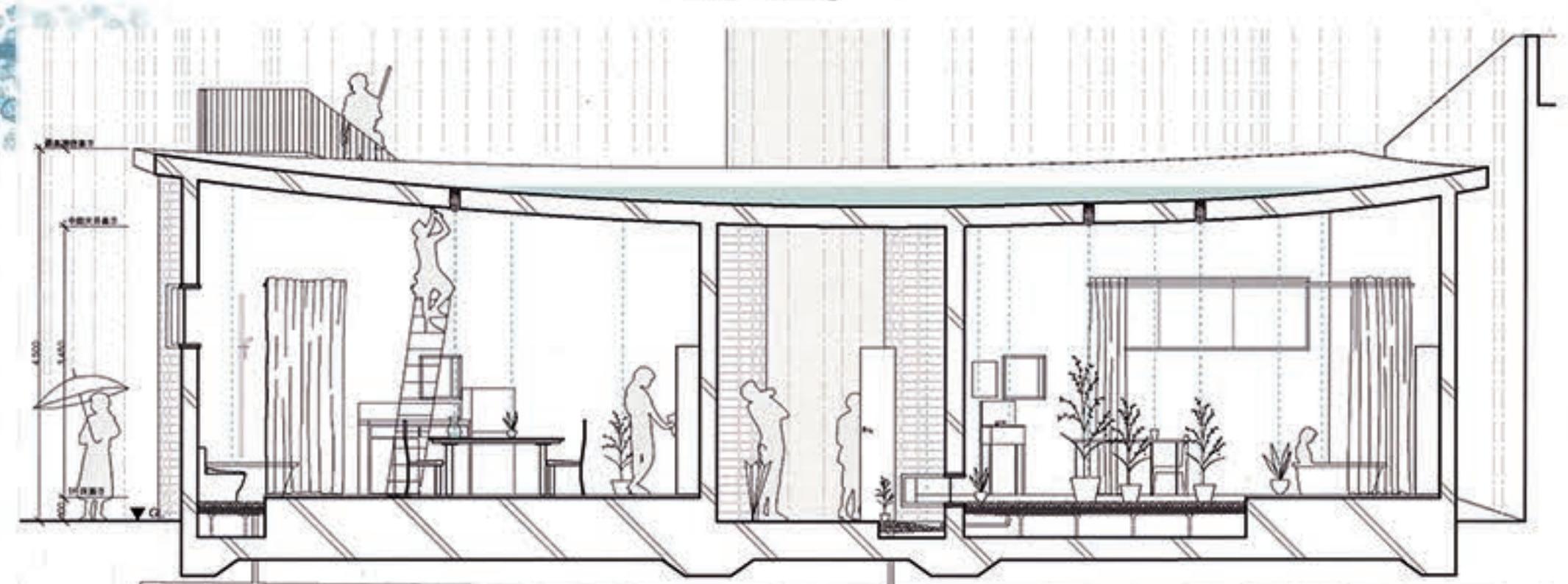
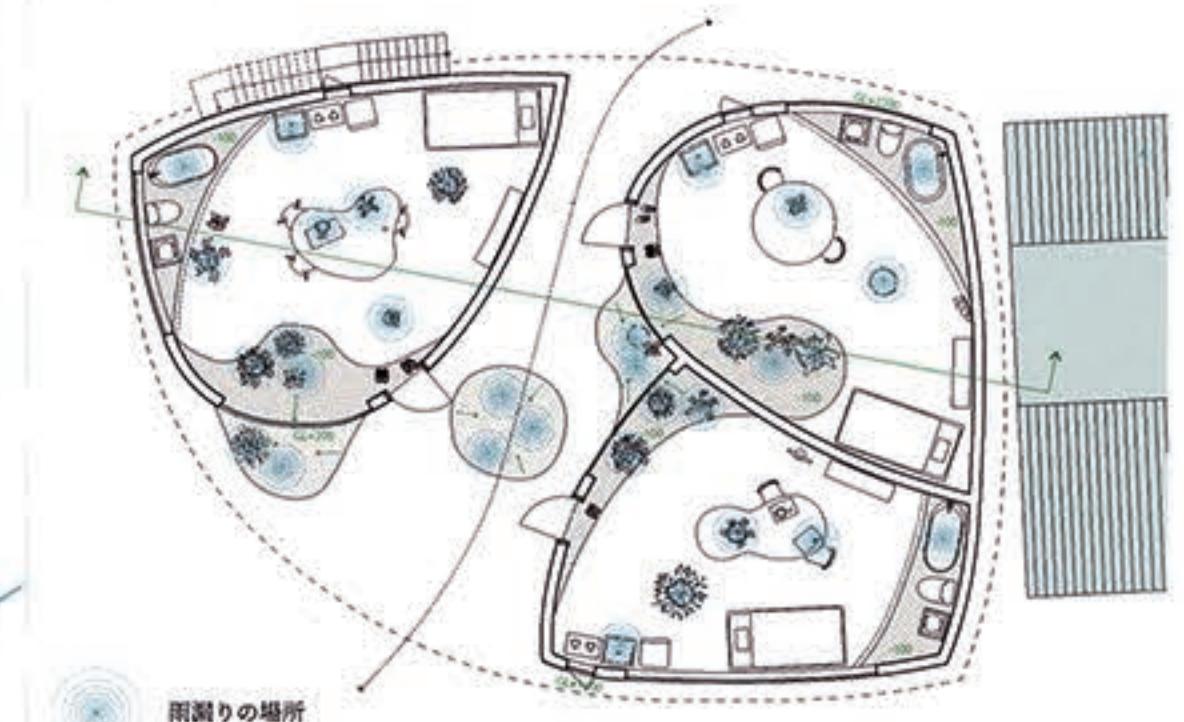
ワンルームが3つ集まつた集合住宅。そこに雨漏りの水滴がしたたる。

特に多く水滴が落ちる水回りと玄関は床が一段低くなつておらず、タイル敷で排水溝がある。雨漏りの下には各々が水瓶や植物やコップを置いて、雨水を利用しつつ、その美しさを楽しむ。

雨水を楽しむ傍ら、「この水はきれいなのか?」と頭の端で思うことで、家のそじやメンテナンス、はたまた世界の環境の調子にまで思考を巡らせる。わざと雨漏りさせるという矛盾を孕んだ建築は、小さな独りよがりのワンルームから、ふと大きな世界へと思想を誘う。

私たちが考える愛とは、美しさや楽しさを欲するエゴに始まりながらも、頭の端っこに周りや世界への眼差しがあるバランスである。それを何よりも建築の形で体现すると、「雨漏りが計画される」という愛おしい矛盾を孕むのであった。

平面図 1:200



東西断面図 1:100